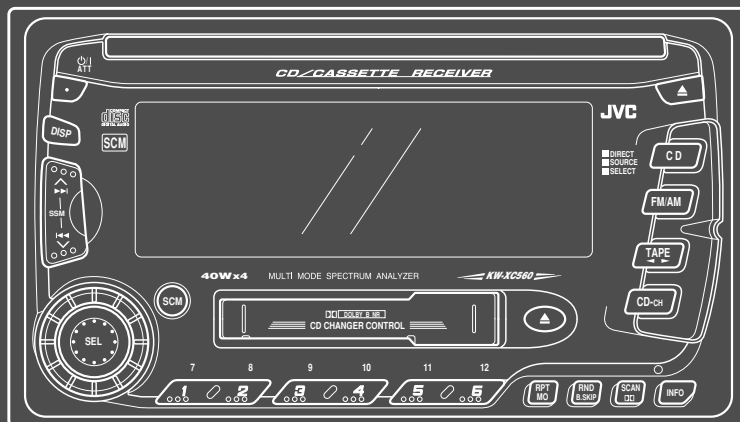


取扱説明書

JVC

KW-XC560

CD/カセットレシーバー



COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

— お買い上げありがとうございます —

ご使用の前にこの「取扱説明書」と「取付説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

目次

● 主な特長	2
● 安全上のご注意	3～7
● 各部の名前と働き	8～13
● 音量・音質の調節	14～15
● 時計の合わせかた	16
● デモ表示について	17
● スペアナとして使うには	18～19
● CDを聞く	20～22
● テープを聞く	23～26
● ラジオを聞く	27～30
● CDチェンジャーのCDを聞く	31～33
● 他の機器の音を聞く	34～35
● 表示窓の明るさを変える	35
● 正しくお使いいただくために	36
● こんなときは	37
● 保証書とアフターサービス	38
● 主な仕様	39
● お手入れ	裏表紙

主な特長

- 2 DINサイズのCD/カセットレシーバー
 - ・ダイレクト選曲
 - ・ランダム演奏/リピート演奏
 - ・8センチCD対応(アダプターなしでダイレクトイン)
- **ダイレクトソース(音源)切換**
 - ・ラジオやCD、CDチェンジャーなどの演奏がワンタッチでスタート(電源を入れることも可能)
- **最大出力40W×4chハイパワーアンプ内蔵**
- **フルロジックオートリバースメカニズム**
 - ・前後9曲のミュージックスキャン
- **SSM搭載チューナー**
 - ・HS-II(高感度)チューナー
 - ・SSMによる放送局のメモリーが可能
 - ・24局プリセット(FM⇒6局×2、AM⇒6局×2)
 - ・アンテナリモート機能インフォメーション
 - ・交通情報が聞けるINFOボタン
- **チェンジャーコントロール機能**
 - ・12枚CDチェンジャー
- **ロータリーボリューム(音量・音質・PSMのモード調節)**
- **音楽に合わせて選べるSCM(サウンドコントロールメモリー)**
 - ・BEAT/POP/SOFT
- 2 プリアウト(RCAピン)

安全上のご注意

—はじめにお読みください—

絵表示について

この取扱説明書には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。
絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。



- この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号



一般的注意



感電



指をはさまれないよう注意

行為を禁止する記号



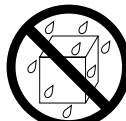
禁止



分解禁止



接触禁止



水ぬれ禁止



- この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、障害を負ったり物的損害が想定される内容を示しています。

行為を指示する記号



一般的指示

安全上のご注意(つづき) —はじめにお読みください—

警告

■本機はDC12V マイナスアース車専用です。



・大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車で使用しないでください。火災などの原因となります。

■配線作業中は、バッテリーの^{マイナス}端子を外してください。



・ショート事故による感電やけが、火災の原因となります。

■本機を、前方の視界を妨げる場所やステアリング、シフトレバー、ブレーキペダル等の運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けしないでください。



・交通事故やけがの原因となります。

■車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行ってください。



・交通事故や火災の原因となります。

■車体のボルトやナットを使用して本機を取り付ける場合は、ステアリング、ブレーキ系統、またはタンクなどの保安部品のビスは絶対に使用しないでください。



・これらを使用しますと制動不能や発火の原因となります。

■車体のボルトやナットを使用してアース線を接続するときは、ステアリングやブレーキ系統等の保安部品のビスは絶対に使用しないでください。



・事故の原因となります。



警告

- コード類は、取付説明書または取扱説明書の指示に従い、運転操作の妨げとならないよう、まとめておくなどしてください。



- ・ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となります。

- 電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源コードを接続することは絶対にお止めください。



- ・リード線の電流容量をオーバーし、火災・感電の原因となります。

- 本機を分解したり、改造しないでください。



分解禁止

- ・事故・火災・感電の原因となります。

- 自動車を運転中に音量調節等の操作をしないでください。



- ・このような操作は、必ず安全な場所に車を停車させてから行ってください。

- 音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。



- ・事故・火災・感電の原因となります。

- ヒューズを交換するときは、必ず規定容量(アンペア数)のヒューズをご使用ください。



- ・規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

- 万一、異物が入った・水がかかった・煙が出る・変な匂いがするなど異常が起きましたら、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。



- ・そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

安全上のご注意(つづき) —はじめにお読みください—

注意

■本機の取付・配線には、専門技術と経験が必要です。



- ・安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

■必ず付属の部品を指定通り使用してください。



- ・指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして事故やけがの原因となることがあります。

■雨が吹き込むところなど、水のかかるところや湿気やほこりの多いところへの取り付けは避けてください。



- ・本機に水や湿気、ほこりが混入しますと発煙や発火の原因となることがあります。

■振動の多いところなど、しっかり固定できないところへの取り付けは避けてください。



- ・外れて事故やけがの原因となることがあります。

■本機の通風孔や放熱板をふさがないでください。



- ・通風孔や放熱板をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

■本機を不安定なところに取り付けしないでください。



- ・正しい設置を行わないと、事故や故障の原因となることがあります。

■正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。



- ・接続が終わったら車のブレーキランプ、ホーンなどが正常に動作することを確認してください。

■車体やねじ部分、シートレール等の可動部に配線をはさみ込まないよう注意してください。



- ・断線やショートにより、事故・感電・火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

- 運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でご利用ください。



・ 車外の音が聞こえない状態で運転すると、事故の原因となることがあります。

- 本機を車載用として以外は使用しないでください。



・ 感電やけがの原因となることがあります。

- カセットテープ挿入口やディスク挿入口に異物を入れないでください。



・ 火災や感電の原因となることがあります。

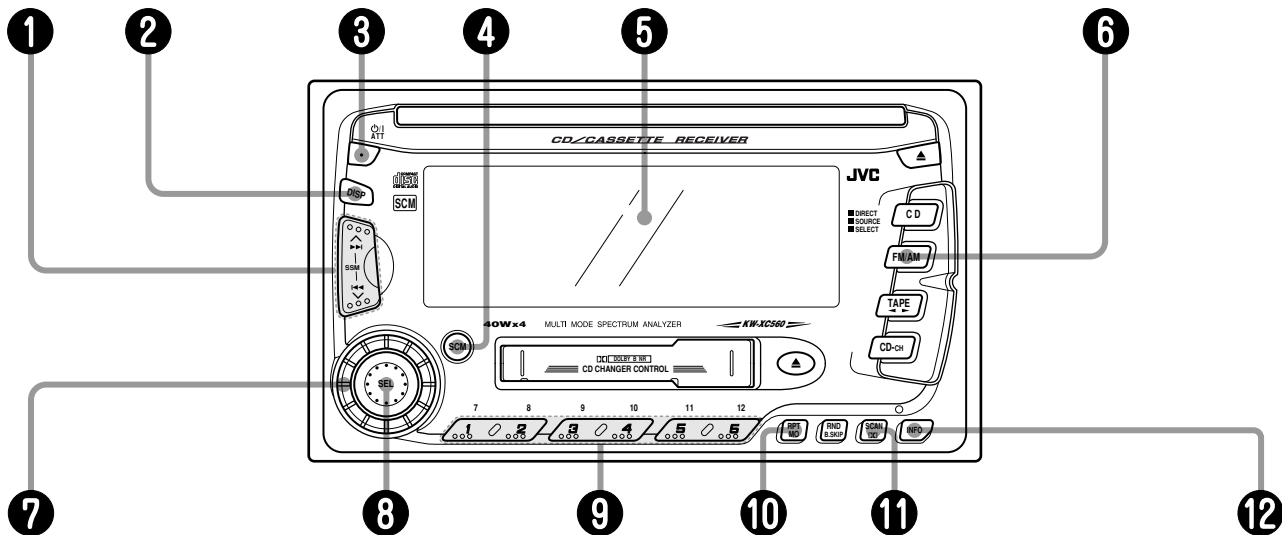
- カセットテープ挿入口やディスク挿入口に手や指を入れないでください。



・ けがの原因となることがあります。

指をはさまれないよう注意

各部の名前と働き(1) — 共通部分およびラジオを聞くときの働きです。 —



1 選局ボタン(∨、∧)/SSMボタン

ストロング
ステーションメモリー

放送局を選局するとき使います。→17ページ参照
∨と∧ボタンの中央を2秒以上押しと、電波状態の良い放送局を、自動的にプリセットボタンにメモリーすることができます(SSM)。→24ページ参照

2 DISPボタン

ディスプレイ

表示窓の表示を変えるとき使います。→18ページ参照
押しとスペアナ*モード表示になります。

3 電源(ON/OFF)/ATTボタン

アッテネーター

電源の「オン」↔「オフ」や音量を一時的に下げることができます。→14ページ参照

4 SCMボタン

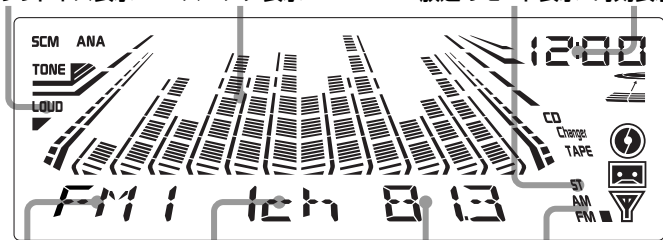
サウンド
コントロールメモリー

聞きたい音楽に合わせて音質を選びます。→16ページ参照

*スペアナ(スペクトラムアナライザーの略)
ソースの音の周波数成分の分布を表示してくれます。

5 表示窓(ラジオのとき)

ラウドネス表示 スペアナ表示 FM放送のモード表示 時刻表示



バンド表示 プリセットチャンネル表示 周波数表示 ソース(音源)表示

・バンド表示や周波数表示などの部分を文字表示部といいます。

6 FM/AMボタン

ソース(音源)を「ラジオ」にしたり、FMとAMの聞きたいバンドを選ぶとき使います。→27ページ参照

電源を入れることもできます。

押すごとにFM1→FM2→AM1→AM2→FM1…と順に変わります。

7 ロータリーボリューム

音量や音質が調節できます。→14ページ参照

8 SELボタン

セレクト

音量・音質調節のモードが選べます。押すごとに

バス トレブル フェーダー バランス ラウドネス
BAS → TRE → FAD → BAL → LOUD



と変わります。→14ページ参照

2秒以上押すと時計合わせなどができます。→13、16ページ参照

9 プリセットボタン(0.00 0.05 ~ 0.5 0.5)

放送局をメモリー(記憶)したり、メモリーした放送局を聞くとき使います。FM、AMとも各バンドごとに6局ずつメモリーできます。→29ページ参照

10 MOボタン

モノラル

FMステレオ放送が雑音で聞きにくいとき使います。

→29ページ参照

11 SCANボタン

スキャン

放送局を探すとき使います。スキャン選局になります。

→29ページ参照

12 INFOボタン

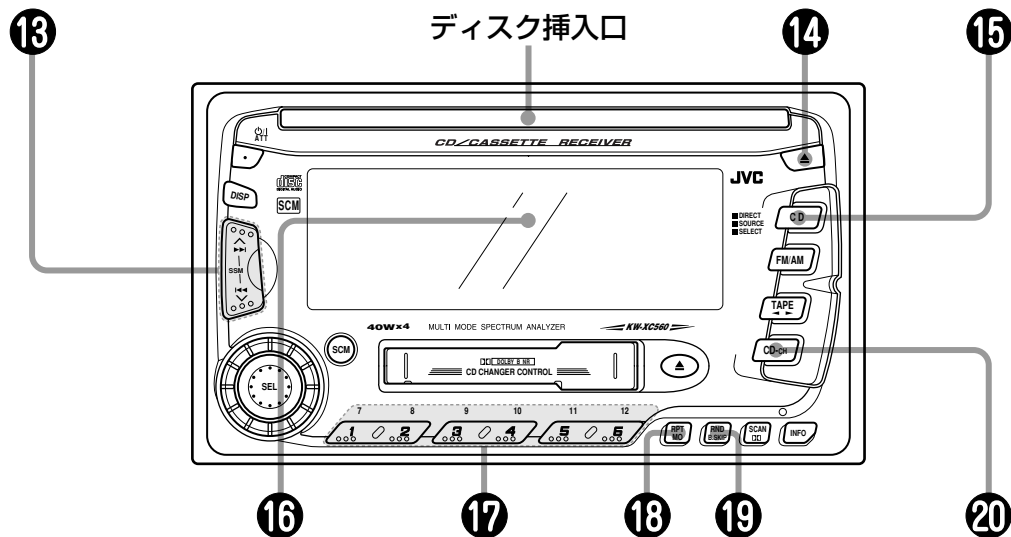
インフォメーション

道路交通情報(AM1,620kHz)を聞くとき使います。

→30ページ参照

各部の名前と働き(2)

—CDを聞くとき、CDチェンジャー内のCDを聞くときの働きです。—



〈お知らせ〉

- 本機にCDチェンジャーが接続されていないときは、ソース(音源)が「CDチェンジャー」にはなりません。
また、本機にCDが入っていないときは、ソース(音源)が「CD」にはなりません。

13 ◀▶(スキップ/サーチ)ボタン

曲の頭出しや早送り、早戻しに使用します。

→ 22 32 ページ参照

14 ▲(ディスク取出し)ボタン

CDを取り出すとき使います。→ 20 ページ参照

15 CDボタン

ソース(音源)を「CD」にすると使います。電源を入れることもできます。

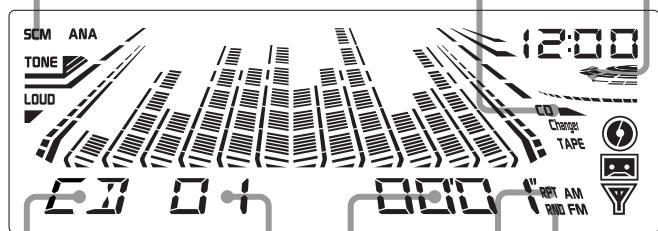
16 表示窓

●CDのとき

SCMモード表示

ソース(音源)表示

演奏中の表示



ソース(音源)表示

曲番号表示

演奏時間表示

ランダム演奏表示

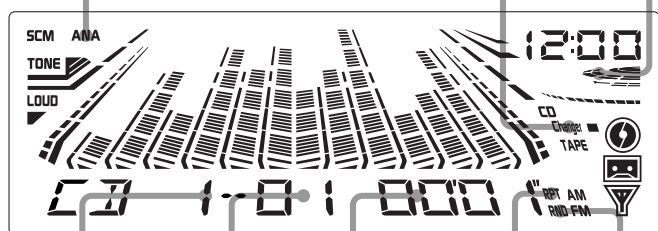
リピート演奏表示

●CDチェンジャーのとき

スペアナモード表示

ソース(音源)表示

演奏中の表示



ディスク番号表示

曲番号表示

演奏時間表示

リピート演奏表示

ランダム演奏表示

17  ボタン●「CD」のとき
曲番号ボタン

聞きたい曲を選ぶとき使います。→21ページ参照

●「CDチェンジャー」のとき
CDダイレクト選択ボタン

CDチェンジャー内の聞きたいCDを直接選ぶとき使います。→32ページ参照

18  リピート
RPTボタン

曲をくり返して聞くことができます。(リピート演奏)

→21 33ページ参照

19  ランダム
RNDボタン

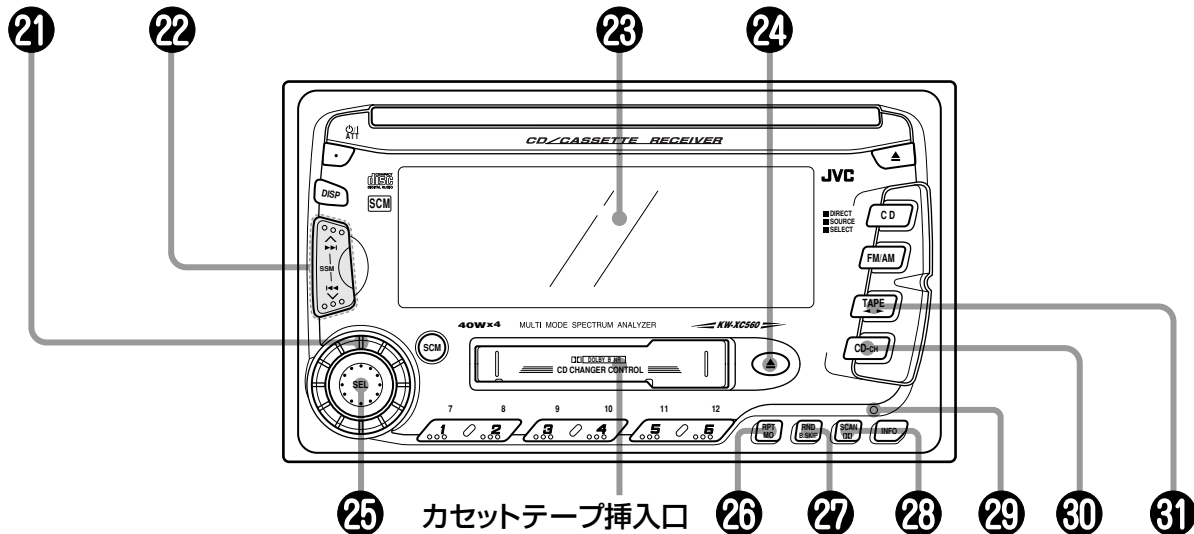
CDに収録されている順番に関係なくランダム(無作為)に聞くことができます。(ランダム演奏)→21 33ページ参照

20  CDチェンジャー
CD-CHボタン

ソース(音源)を「CDチェンジャー」にするとき使います。電源を入れることもできます。→31ページ参照

各部の名前と働き(3)

— テープ再生の音および他の機器の音を聞くととき、その他の働きです。 —



21 ロータリーボリューム

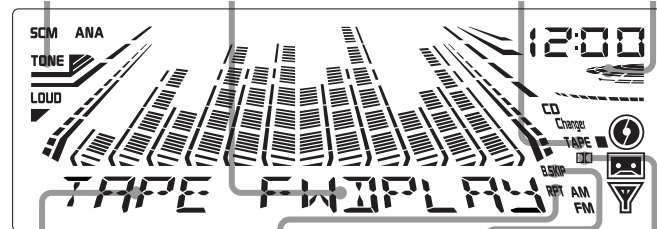
SELボタンを2秒以上押し選んだPSMのモードの調節または選択ができます。→16 18 ページ参照

22 ◀▶ ボタン

1秒以上押しすと早送りや巻戻し、「ポン・ポン」と押しすと、ミュージックスキャン(曲の頭出し)ができます。→24 25 ページ参照

23 表示窓(TAPEのとき)

トーン表示 テープ走行方向表示 ソース(音源)表示 演奏中の表示



ソース(音源)表示 リピート表示 ブランクスキップ表示 ドルビーNR表示

24 ▲(テープ取出し)ボタン

テープを取り出すとき使います。→26ページ参照

25 SELボタン

2秒以上押すと、お買い上げ時は「PSM CLOCK H」のモードになり時計合わせ(「時」の調節)ができます。このとき▶▶I(またはI◀◀)ボタンを押すと、下記のモードが選べます。例は▶▶Iボタンを押したときです。I◀◀ボタンでは逆に変わります。次からは選んだモードが優先的に表示されます。



26 リピート RPTボタン

再生中の曲をくり返し聞くと使います。→25ページ参照

27 ブランクスキップ B.SKIPボタン

テープのあき(ブランク)を飛ばして聞くことができます。
→24ページ参照

28 ノイズリダクション NR(ドルビーNR)ボタン

テープのNRモードに合わせて使います。→23ページ参照
 押すごとに **NR** →解除(OFF) と変わります。

29 リセットボタン

始めて電源を入れたときまたは、どのボタンを押してもうまく動作しなくなったとき、このボタンを押して内蔵のマイコンをリセットします。このときプリセットした放送局や時計などもリセットされ、初期状態に戻ります。

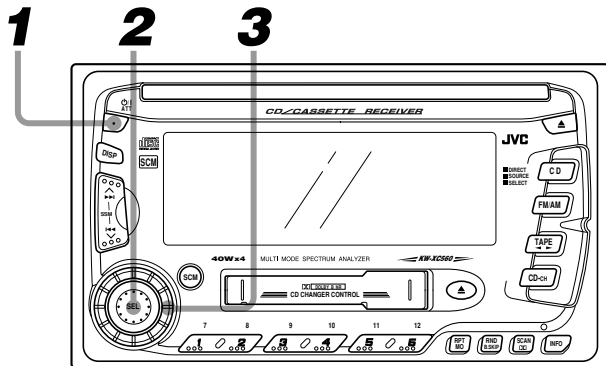
30 CD-CHボタン

「LINE IN」のモードに切換えたあと、接続した他の機器のソース(音源)にするとき使います。→34ページ参照
 電源を入れることもできます。

31 テープ TAPE◀▶ボタン

ソース(音源)を「TAPE」にするとき使います。再生中に押すと、テープの聞きたい面を選ぶことができます。→23ページ参照
 電源を入れることもできます。

音量・音質の調節



1 電源/ATTを押して電源を入れる (HELLOが表示されます)



・電源を切るときは、1秒以上押します。(SEE YOU表示のあと電源オフ)

・「ボン」と押したときは、ATTになり音量が一時的に下げられます。ATT表示が点滅します。もう一度押すと元の音量に戻ります。

2 SELを押して調節したいモードを選ぶ



・「ボン・ボン」と押すごとに表示窓に

BAS → TRE → FAD → BAL
← VOL ← LOUD ←

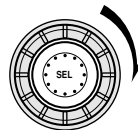
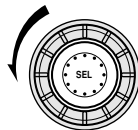
と変わります。ただしVOL(音量)調節のみの場合、この操作は、必要ありません。直接ロータリーボリュームで調節できます。

・「ボン」と押す

一口メモ

- 調節したレベルはメモリー(記憶)されます。電源を切っても次に電源を入れたときは、電源を切る前のレベルが表示されます。
- フェーダー調節は4スピーカー接続のときのみ調節してください。

3 ロータリーボリュームを回して調節する



VOL (音量)	音量が下がる	音量が上がる
BAS (低音)	低音が減衰する	低音が強調される
TRE (高音)	高音が減衰する	高音が強調される
FAD (フェーダー)	フロントの音量が下がる	リアの音量が下がる
BAL (バランス)	右チャンネルの音量が下がる	左チャンネルの音量が下がる
LOUD (ラウドネス)	ラウドネス“オフ”	ラウドネス“オン”

● 初期設定状態と調節範囲

	初期設定	調節範囲
VOL (音量)	15	00~50
BAS (低音)	00 (フラット)	-6~+6
TRE (高音)	00 (フラット)	-6~+6
FAD (フェーダー)	00 (センター)	リア フロント R6~F6
BAL (バランス)	00 (センター)	レフト ライト L6~R6
LOUD (ラウドネス)	ラウドネス“オン”	オン/オフ

- ラウドネス“オン”設定にすると、SEL LOUD ONが表示になります。小音量時の低音、高音が増強されて聞こえます。

音量調節のとき

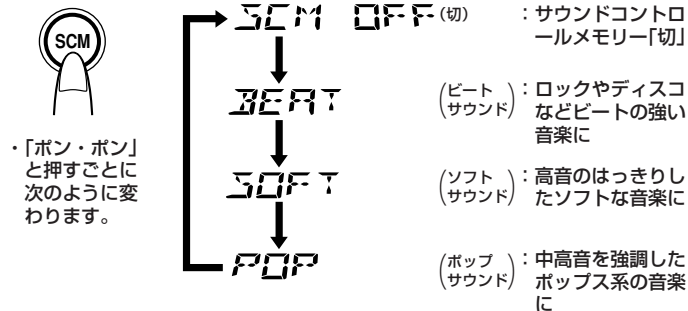


- 各調節内容のレベルも液晶表示されます。☒は音量調節の場合です。

- 調節が終わってから5秒後に、表示窓は元のソース(音源)表示に戻ります。

SCMボタンの使いかた

SCM(サウンドコントロールメモリー)を使うと、お聞きになる音楽にあわせて音質が自由に選べます。



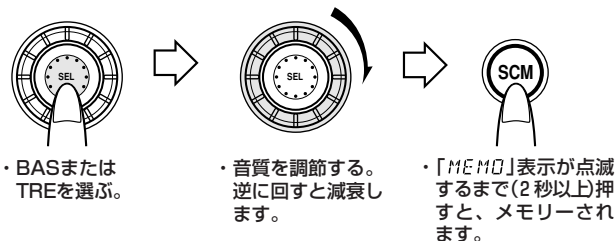
● SCMボタンのメモリー内容を変えるには

ビート、ソフトおよびポップサウンドは、音質が任意に調節できます。

ラウドネスの「オン/オフ」も一緒にメモリーできます。

例：ビートサウンドの調節

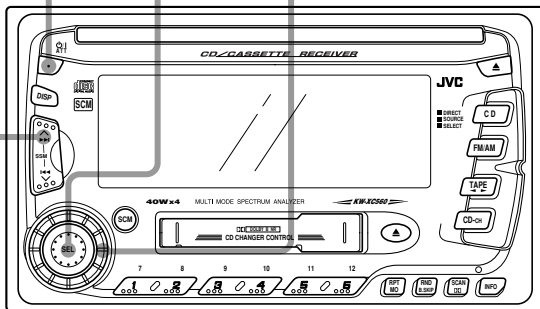
SCMボタンを押して「BEAT」にしてから…



時計の合わせかた

— 本機に内蔵の時計を現在時刻に合わせておきます。 —

3-2 1 2 3-1・3-3



1 電源を入れる (HELLOが表示されます)



・電源を切る前のソース(音源)が表示されます。

2 SELを2秒以上押して「PSM CLOCK H」を表示させる



・2秒以上押す。
 ・「PSM CLOCK H」以外の表示が出たときは、▶▶(または◀◀)ボタンを「ボン・ボン」と押して選びます。

3 ロータリーボリュームと▶▶で現在時刻に合わせる (時刻表示点滅中に操作します)

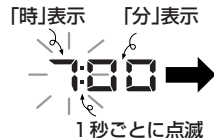
例：7時30分に合わせるとき(12時間表示方式です)

「時」を合わせる



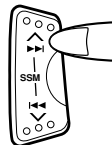
「時」を下げるとき
 「時」を上げるとき

(3-1)



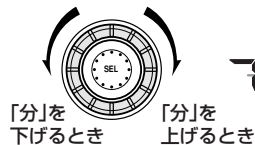
・調節中は文字表示部にCLOCK HOURが表示されます。

「PSM CLOCK M」を
表示させる



(3-2)

「分」を合わせる



「分」を下げるとき
 「分」を上げるとき

(3-3)

・調節中は文字表示部にCLOCK MINUTEが表示されます。

- ・時刻合わせが終わったあと、15秒で自動的に元のソース(音源)表示に戻ります。すぐに戻りたいときはSELボタンを「ボン」と押します。
- ・時刻を合わせ直すときも2~3の操作をします。
- ・バッテリーの交換等でメモリー回路への電源供給が途切れると、設定した時刻は取り消されます。もう一度時刻合わせをしてください。

デモ表示について

表示窓のデモ表示について

本機は、一定時間*無音状態が続くと、自動で以下のようなデモ表示を行います。

JVC → CD CASSETTE
↑

*一定時間とは：

- 初めて電源を入れたとき
- リセットボタンを押してリセットしたときは 10 秒
- 入力信号のない状態(放送局を受信していないときなど)が 3 分以上続いたとき

デモ表示を出なくすることもできます。右の説明の「表示窓のデモモードの解除」を参照してください。

表示窓のデモモードの解除/設定

電源を「オン」にしたときのデモ表示を出なくすることができます。

1 SELを2秒以上押します

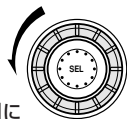


2秒以上押す。

・お買い上げのときは「PSM CLOCK H」が表示されます。

2 ▶▶(または◀◀)を「ボン・ボン」と押して「PSM DEMO」を選ぶ

3 ロータリーボリュームを回して「DEMO OFF」にする



「OFF」にするとき

・「DEMO OFF」にすると、デモ表示を出なくすることができます。
通常は、「DEMO OFF」で使用するをお勧めします。

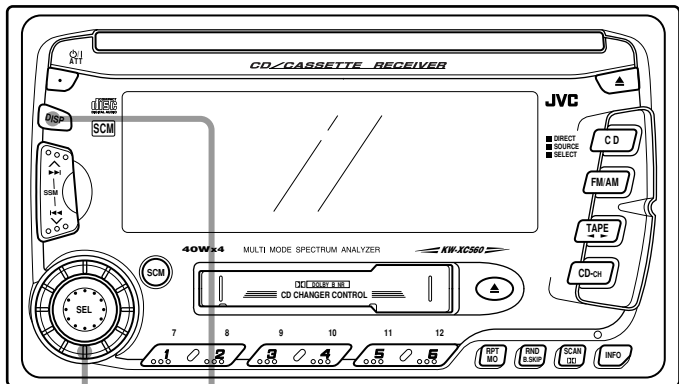
(元に戻すときは、ロータリーボリュームを右方向に回して「DEMO ON」にします)

4 SELを押す

・元のソース(音源)表示に戻ります。

スペアナとして使うには

- ・お買い上げ時は、表示窓がスペアナ表示のALL DEMOモードになっております。このときロータリーボリュームで表示を変えることができます。



2

1

● スペアナ表示の選択

1 DISPを押してスペアナのモードにする



・お買い上げ時は

ALL DEMO

が表示されます。
スペアナの各モードの
表示をくり返します。

2 ロータリーボリュームを回してスペアナ表示を選 ぶ

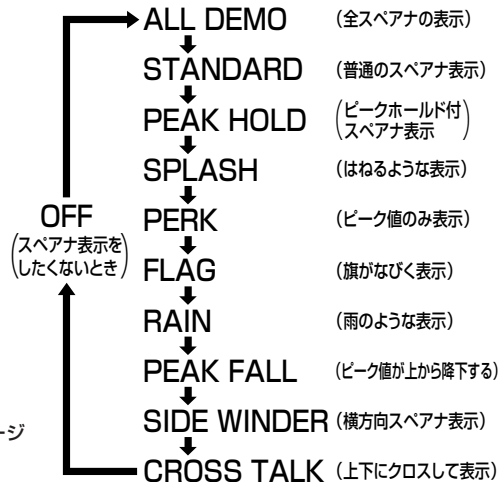


・左方向に回すと
逆に選べます。

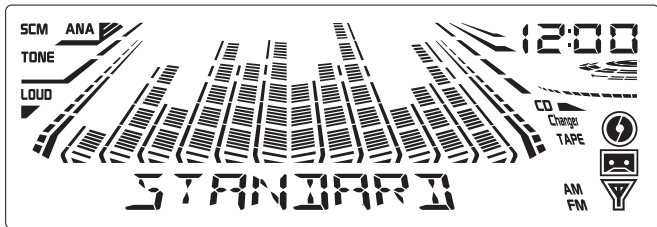


・10秒後に **TONE** になり、選んだスペアナで表示されます。

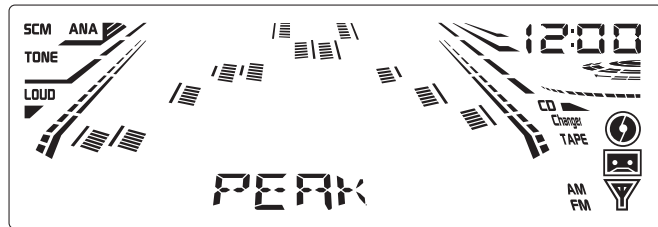
※表示例は 4 ページ
にあります



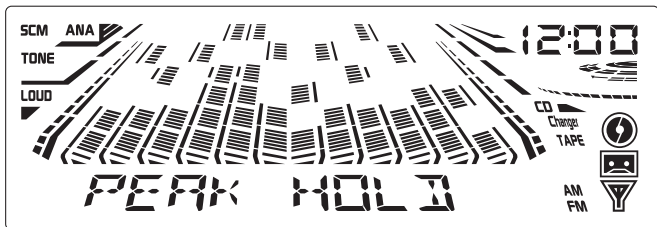
スタンダード
● STANDARD



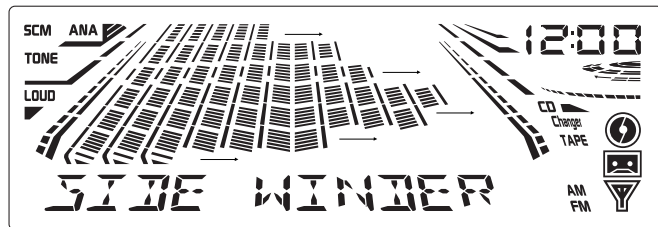
ピーク
● PEAK



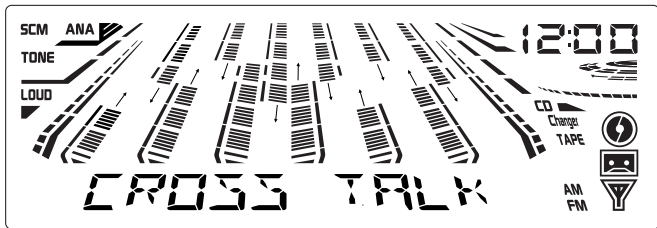
ピーク ホールド
● PEAK HOLD



サイド ワインダー
● SIDE WINDER

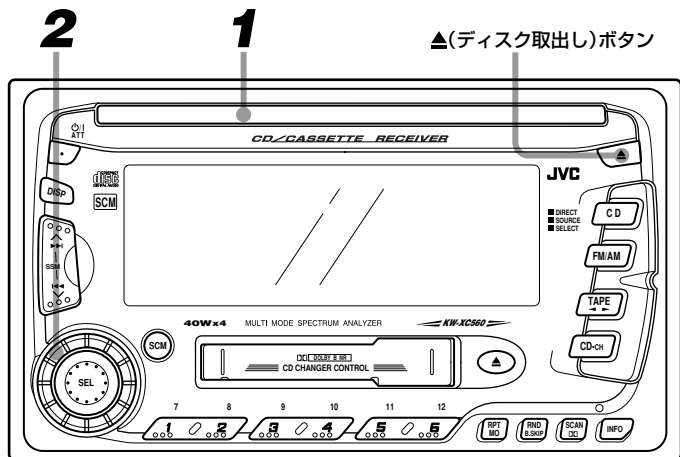


クロス トーク
● CROSS TALK



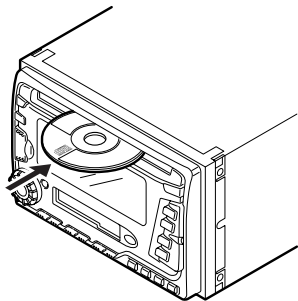
CDを聞く

— 番号順に操作します。 —



● 8センチCDの入れかた

8センチCDは、挿入口の中央から軽く押し入れます。



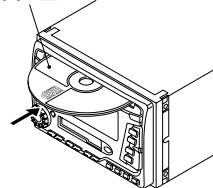
● CDを入ると…

ソース(音源)は、自動的に「CD」になり演奏がスタートします。またCD演奏中に電源を切ったときは、電源を入れると自動的に演奏がスタートします。

1 CDを入れる

(電源が入り、演奏がスタートします)

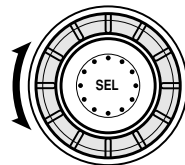
文字のある
面を上



→ CD 01 000

・演奏中は が表示されます。

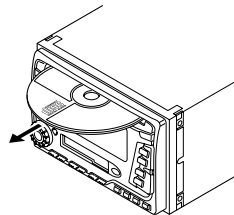
2 ロータリーボリュームで音量を調節する



→ SEL VOL 10

- CDを取り出すときは、▲(ディスク取出し)ボタンを押します。エンジンキーが「OFF」のときでも取り出せます。CDが出てきたのち電源が切れます。

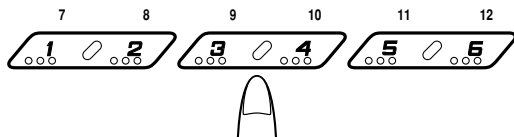
(取らずにそのままにしておく
と、15秒後に自動的に中に引
き込まれます)



- 文字のある面に のマークが入っている、CDをお使いください。

ダイレクト演奏

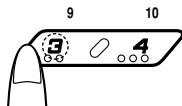
演奏中に聞きたい曲に合わせて曲番号ボタンを押すと、すぐその曲に移り演奏がスタートします。



・ 1～6 曲目を聞くときは…

聞きたい曲番号のボタンを「ポン」と押します。

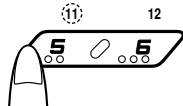
例：3 曲目のとき



・ 7～12 曲目を聞くときは…

聞きたい曲番号のボタンを1秒以上押します。

例：11 曲目のとき



・ 13 曲目以上は、演奏中に▶▶ボタンを押して聞きたい曲番号を選びます。⇒24 ページ 「スキップ演奏」参照

● 音量調節について

CDの演奏は、無音状態での雑音がほとんどありません。気づかずに大きめの音量に調節すると、思わぬ大きな音が出てスピーカーを破損する恐れがあります。電源を切る前に音量を下げておき、演奏がスタートしてから適度な音量に合わせてください。

1 曲リピート演奏(くり返し演奏)

演奏中の曲だけをくり返して聞くことができます。



・ 表示窓に「RPT」が表示されます。

もう一度押すと、解除されます。

ランダム演奏

演奏中のCDを、収録してある順に関係なくランダム(無作為)に聞くことができます。



・ 表示窓に「RND」が表示されます。

もう一度押すと、解除されます。

CD-Rディスクについて

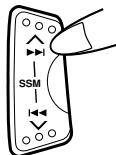
お客様が編集したCD-Rディスクは、ファイナライズされているディスクに限り本機でお楽しみいただけます。

- CD-Rディスクをお使いになる前に、CD-Rディスクの使用上の注意をよくお読みください。
- ディスクの特性・傷・汚れまたはプレーヤーのレンズの汚れ・結露などにより本機で演奏できないことがあります。
- CD-RW(リライタブル)ディスクは演奏できません。

CDを聞く(つづき)

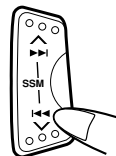
スキップ演奏(曲の頭出し)

●演奏中に次の曲を聞くには…



・▶▶ボタンを「ポン」と1回押すごとに次の曲次の曲へと移り、頭から演奏が始まります。

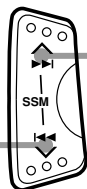
●演奏中に前の曲を聞くには…



・◀◀ボタンを「ポン」と1回押すと今演奏中の曲の頭に戻ります。もう一回押すと前の曲の頭に戻り、演奏が始まります。

サーチ演奏(早送り・早戻し)

・演奏中のCDの好みの位置を探すときは、早送り・早戻しの機能を使います。



早送りをするとき
押し続ける

早戻しをするとき
押し続ける

サーチ速度は始めゆっくり、押し続けると速くなります。
このとき演奏音は通常の1/4程度の大きさで聞こえます。

指を離すと普通の演奏に戻ります。

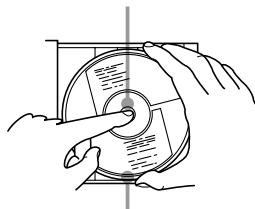
お願い

●CDを保管するときは

専用のケースに入れ、直射日光の当たる所、ダッシュボードの上などは避けて保管してください。

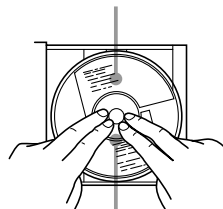
●ケースからの出し入れ

センターホルダーを押さえ…



演奏面(虹色に光っている面)に
触れないように持って出す。

文字のある面を上にして…



上から押さえて入れる。

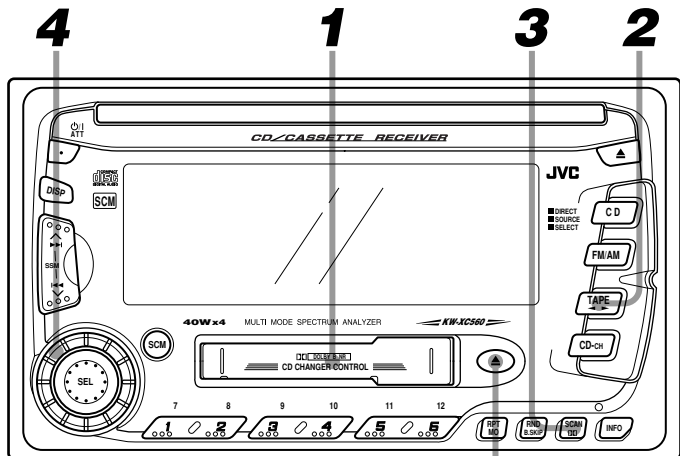
- ラベル面に紙を張ったり字を書いたりしないでください。
- CDは曲げないでください。



- ハートや花などの形をしたシェイプCD(特殊形状のCD)は、絶対に使用しないでください。シェイプCDを入れると、故障の原因となります。
- 8センチCD用のアダプターは、使用しないでください。故障の原因となります。

テープを聞く

— 番号順に操作します。 —



▲(テープ取出し)ボタン

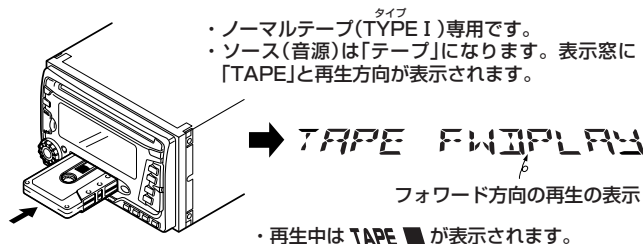
キーオフリリース/キーオンプレイ機構について

本機はテープ再生中にエンジンキーを「OFF」にすると、キーオフリリース機構により自動的にヘッドをテープから離してメカニズムを待機状態にします。

再びエンジンキーを「ON」にすると自動的にテープ再生になります。

*ドルビーノイズリダクションはドルビーラポラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBYおよびダブルD記号DDはドルビーラポラトリーズライセンシングコーポレーションの商標です。

1 カセットを入れる→電源が入ります (上の面から自動で再生スタート)



2 TAPE ◀▶ を押して聞きたい面に合わせる



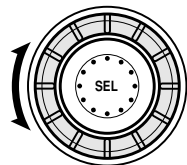
・「ボン」と押すごとに交互に変わります。

3 DD を押してテープのNR*モードに合わせる



・NR方式で録音されたテープを聞くとき押して表示窓にDDを表示させます。もう一度押すと「オフ」になります。

4 ローターボリュームで音量を調節する



テープを聞く(つづき)

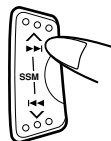
ミュージックスキャン(MS)の使いかた

ミュージックスキャンとは、曲と曲の間の録音されていないあき(ブランク)を検出して頭出しをする機能です。

前後9曲までの曲を飛び越して再生することができます。

操作手順 例：上の面の3曲を飛び越すとき

1 テープを入れ、▶▶ ボタンを「ポン・ポン」と3回押す



・3曲進むときの操作です。



T A P E + 3 - M M S

(3曲戻すときは◀◀ボタンを3回押します)自動選曲の状態になります。

2 頭出しができるると再生が始まります

● 頭出しの途中でテープが終わると

巻戻しで巻き始めまで戻ったときは、その面の頭から再生状態になります。早送りで巻き終わりまで行くと反転し、反転した面の巻き始めから再生状態になります。

カセットテープの取り扱いかた

- ・テープにたるみがありますと、巻き込んだり、故障の原因になります。使用する前に右図のようにしてたるみを取り除いてください。
- ・テープを引きだしたり、テープ面にふれないでください。
- ・C-120などの長時間テープは薄いため、こきざみな走行や停止などをくり返すと、テープが機械の内部に巻き込まれることがありますのでご注意ください。



矢印方向に鉛筆を回す

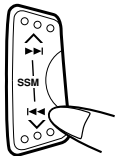
カセットテープの保管

- ・カセットテープはケースなどに納め、次のような場所は避けて保管してください。
- ・直射日光の当たる所
- ・ホコリや湿気の多い所
- ・スピーカーの上など磁気の影響を受けやすい所

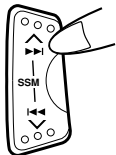
ご注意

- クラシック音楽などで音が非常に小さい部分が長く続く曲や曲と曲の間が短すぎたり、雑音が録音されているとミュージックスキャンやブランクスキップが正常に動作しないことがあります。ブランクが4秒以上あるテープを使ってください。
- ミュージックスキャンの機能は、テープを取り出すと取り消されますが、ブランクスキップの機能は残ります。

テープを早送りしたり巻戻す



●テープを巻戻すとき◀◀ボタンを1秒以上押す。表示窓に「REW」が表示され、巻き始めまで戻るとその面の再生を始めます。



●テープを早送りするとき▶▶ボタンを1秒以上押す。表示窓に「FF」が表示され、巻き終わりまで早送りすると反転してその面の巻き始めから再生します。

- 動作の途中で再生状態にしたいときは、TAPE◀▶ボタンを「ポン」と押します。
- 早送りや巻戻し動作中は、再生中の表示が速く動きます。

くり返して聞く リピート -RPTボタンの使いかた-

再生中の曲をくり返して聞きたいときRPTボタンを押します。表示窓に「RPT」が表示され、くり返し再生になります。やめるときは、もう一度RPTボタンを押すかまたはテープを取り出します。ソース(音源)を切換えたときも解除されます。



ブランクスキップの使いかた



●押すと表示窓に「B.SKIP」が表示されます。

- ブランクスキップは、曲の終わりのあき(ブランク)を聞きたくないとき使います。
再生中に15秒以上のブランクが続くと、自動的に早送り選曲となり次の曲を見つけると再び再生を始めます。

ラジオやCDなどを聞いているときテープ再生に切替える



本機にテープが入っているときは、TAPE◀▶ボタンを押すだけでテープ再生に切替えることができます。また電源が切れているときも、テープ再生にすることができます。

使えるカセットテープは タイプ

本機はノーマルテープ(TYPE I)専用です。ハイポジションテープ(TYPE II)やメタルテープ(TYPE IV)は、音質が変わりますのでお勧めできません。

		再 生
ノーマルテープ	(TYPE I)	○
ハイポジションテープ	(TYPE II)	×
メタルテープ	(TYPE IV)	×

テープを聞く(つづき)

テープを取り出すには



▲(テープ取出し)ボタンを押します。テープを入れる前のソース(音源)になります。本機はエンジンキーが「OFF」のときでもテープが入っていれば、▲(テープ取出し)ボタンでテープが取り出せます。この場合、テープが出てくると自動で電源が切れます。

ヘッド部の清掃

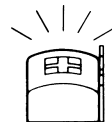
ヘッドは音をひろいだす大切な部分です。

ヘッドが汚れると

- 音質が悪い。
- 音が小さい。
- 音がとぎれる。

などの症状がでます。

症状がでてくる前に(およそ10時間使うごと)に、別売りのオートヘッドクリーナー「CK-6型」を使ってヘッド部を清掃してください。詳しくはオートヘッドクリーナーの説明書を参照してください。



ラジオを聞く

— 番号順に操作します。 —

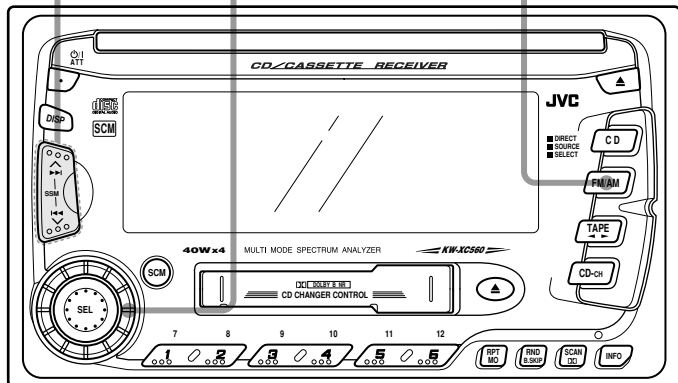
マニュアル選局

電波の弱い放送局を受信したり、聞きたい放送局の周波数が分かっているときなどに使います。

3・4

5

1・2



● マニュアル選局のモードは…

選局の操作から5秒後に、マニュアル選局のモードは自動的に解除されます。→シーク選局(28ページ参照)のモードになります。

で注意

- 交通安全のため、運転中は本機を操作しないでください。必ず停車時に操作してください。

1 FM/AMでソース(音源)を「ラジオ」にする →電源が入ります



・電源が入ると自動的に前の放送局を受信できます。

(FM放送の場合)
FM ■が表示
されます



・表示窓にバンドと周波数が表示されます。
お買い上げ時は、FM1 1ch 76.0が表示されます。

2 FM/AMでバンドを選ぶ



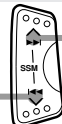
・押すごとに
FM1 → FM2
↑ ↓
AM2 ← AM1
と変わります。
・AM放送はモノラル受信です。

3 選局ボタン(へまたは∨)を1秒以上押し てマニュアル選局の モードにする



・選局ボタン(へまたは∨)を1秒以上押し表示窓に「MANU」を点滅させます。

4 選局ボタン(へまたは∨)で放送局に合わせる

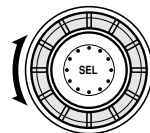


周波数が
下がる

周波数が
上がる

・1回押すとFMは0.1MHz、AMは9kHzずつ移動し、押し続けると連続して変わります。

5 ロータリーボリューム で音量を調節する



ラジオを聞く(つづき) — 番号順に操作します。 —

プリセット選局

本機は、周波数を記憶しておくメモリー回路が内蔵されていますので、いったんメモリーしておけばあとはプリセットボタンを押すだけで正確な放送局の呼び出しができます。

- 操作例：FM放送の81.3MHzにある局をプリセットボタン $\left[\begin{array}{|c|} \hline \text{PRESET} \\ \hline \end{array} \right]$ にメモリーするには…

1 FM/AMで「FM1」を選ぶ → FM 1

2 選局ボタン(∧または∨)で希望の放送局に合わせる

3 プリセットボタンの $\left[\begin{array}{|c|} \hline \text{PRESET} \\ \hline \end{array} \right]$ を2秒以上押す



- ・バンドごとに6局ずつメモリーできますので、上記の操作例を参考に好きな順序でプリセットボタンにメモリーしてください。
AM放送の場合でも同じ手順でメモリーできます。

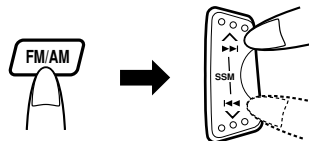
ご注意

- バッテリーの交換等でメモリー回路への電源供給が途切れるとメモリーした局や時刻の設定は、すべて取り消されます。このようなときはもう一度メモリー操作と、時刻合わせをしてください。

シーク選局(自動選局)

「MANU」が表示窓に表示されていないときは、選局ボタン(∧または∨)を「ポン」と押すだけでチューナーが自動的に放送局を探してくれます。これをシーク選局(自動選局)といいます。希望する放送局の周波数を正確に覚えていないときなどにお使いください。

例：FM放送のとき



- ・「SEEK」が表示され放送局が見つかると、選局が自動停止します。

- ・ FM 1 または FM 2 を選ぶ。 「ポン」と押して離す。

お知らせ

- シーク選局(またはマニュアル選局)中にプリセット済みの放送局を受信すると、そのチャンネル数字が表示されます。これにより放送局がどのボタンにメモリーされているか分かります。

モ/ラル MOボタンの使いかた



FMステレオ放送受信時に電波状態が悪くて雑音が多いとき、このボタンで切替えます。表示窓に「MO」が表示されモノラル受信モードになり、聞きやすくなります。電波状態が良好になったら「ST」表示に戻してお使いください。

SSM(ストロングステーションメモリー)の使いかた

チューナーが自動的に電波の強い放送局を、周波数の低い順に6局までメモリーしてくれます。

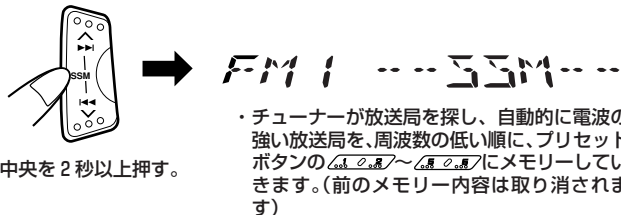
旅行先などで放送局を探すときに便利です。

●操作例：FM 1 にメモリーするとき

1 FM/AMでバンドを選ぶ(FM 1 にする)



2 選局ボタンのへと∨の中央を2秒以上押す



3 放送局が6局メモリーされるとプリセット1の表示になります

- ・プリセットボタン(△の1～6)を押して聞きたい放送局を選びます。(放送局が6局より少ないときは、前のメモリー内容が残ります)

アンテナリモートについて

電動アンテナ装備車およびアンテナプースター装備車の場合は、**オートアンテナ** コードを車両側の対応する端子(オートアンテナ)に接続してください。ソース(音源)を**ラジオ**にすると自動的にアンテナ(プースター)側に電源が供給されます。“CDチェンジャー”や“CD”などにソース(音源)を切換えると、自動的にアンテナ側への電源が切れます。

(**オートアンテナ** の最大コントロール電流は250mAです)

オートアンテナ コードを接続しても、コントロール電流が過大で放送の受信がうまくできないときは、**リモート出力** に接続し直してください。

この場合、どのソース(音源)でもアンテナ(プースター)側に電源が供給されます。

スキャン選局



SCANボタンを押すと、「**SCAN**」が表示され自動的に周波数が高い方に移動して放送局を探します。放送を受信するごとに表示の周波数が点滅し、約5秒間モニターしていきます。

聞きたい放送局のところでもう一度、**SCAN**ボタンを押すとスキャン選局が停止し、その放送を継続して聞くことができます。

ラジオを聞く(つづき)

道路交通情報を聞く



高速道路などの特定地域では、AM1,620kHzで道路交通情報を聞くことができます。

聞きたいところで**INFO**ボタンを押すと、ソース(音源)に関係なく1,620kHzが受信できます。

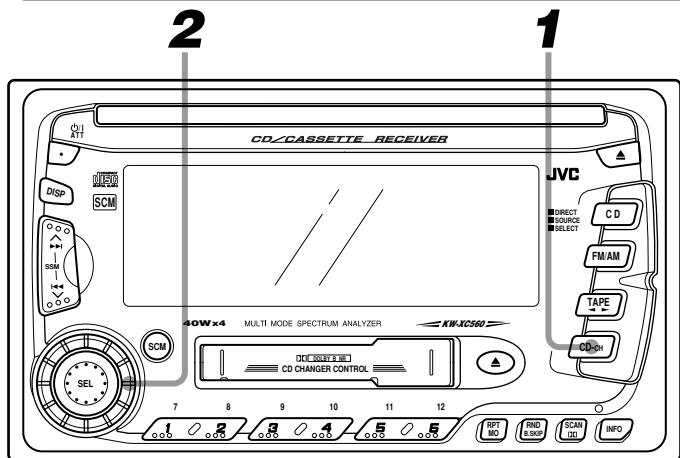
- このモードのときはボリュームが独立しており、交通情報を聞く場合にのみ音量を上げることができます。もう一度押すと元のソース(音源)に戻り、音量も元に戻ります。
- なお、別の放送局を受信中に**INFO**ボタンを2秒以上押すと、その放送局と音量が**INFO**ボタンにメモリーされます。

INFO 1620

CDチェンジャーのCDを聞く

— 番号順に操作します。 —

全曲演奏 — CDチェンジャー内のマガジンにはあらかじめCDを入れておいてください。 —



1 CD-CHでソース(音源)を「CDチェンジャー」にする→電源が入ります

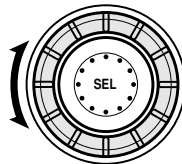


・ CDチェンジャーを演奏中に電源を切ったときは、電源が入ると自動的に演奏が始まります。

CD 1-01 0001

・ 演奏中は **Change** ■ が表示されます。

2 ロータリーボリュームで音量を調節する



SEL VOL 10

● CD-CHボタンを押しても「CDチェンジャー」に切り換えができないときは…

CD-CHボタンのモードを「LINE IN」から「CDチェンジャー」のモードに変えます。→ 85 ページ参照

● 最後の曲の演奏が終わると、自動的に次のCDの演奏が始まります。(全CDのくり返し演奏になります)

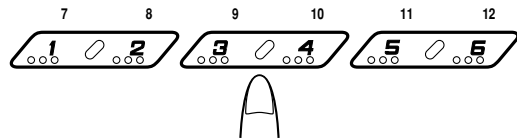
● 演奏を途中でやめる

FM/AMやCDボタンを押して他のソース(音源)に切り換えます。

CDチェンジャーのCDを聞く(つづき)

CDダイレクト選択ボタンの使いかた

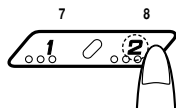
聞きたいCDが分かっているときは、CDダイレクト選択ボタンを使うと便利です。CDが選ばれると、選んだCDの1曲目から演奏が始まります。



聞きたいCDが入っているディスクトレイの番号に合わせてボタンを押します。(マガジンの下から順に1・2・3…となっています)

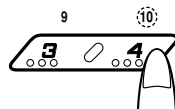
- ・ 1～6枚目を選ぶときは：ボタンに表示されている番号のボタンを「ポン」と押します。

例：2枚目のとき



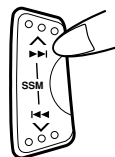
- ・ 7～12枚目を選ぶときは：ボタンの上のパネル面に表示されている番号のすぐ下のボタンを1秒以上押します。

例：10枚目のとき



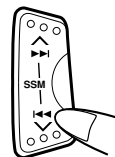
スキップ演奏(曲の頭出し)

- 演奏中に次の曲を聞くには



- ・ ▶▶ボタンを「ポン」と1回押すごとに次の曲次の曲へと移り、頭から演奏が始まります。

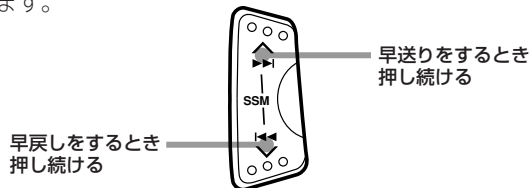
- 演奏中に前の曲を聞くには



- ・ ◀◀ボタンを「ポン」と1回押すと今演奏中の曲の頭に戻ります。もう1回押すと前の曲の頭に戻り、演奏が始まります。

サーチ演奏(早送り・早戻し)

- ・ 演奏中の曲の途中の位置を探すときは、早送り・早戻しの機能を使います。

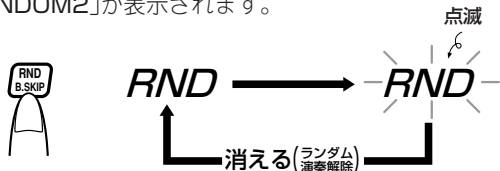


サーチ速度は始めゆっくり、押し続けると速くなります。このとき演奏音は通常の1/4程度の大きさで聞こえます。指を離すとふつうの演奏に戻ります。

ランダム演奏

ランダム

- ・ RNDボタンを使うとCDの収録順に関係なく、ランダム(無作為)な順番で聞くことができます。表示窓に「RANDOM1」または「RANDOM2」が表示されます。



- ・ 押すごとに次のように動作します。
- ・ **RANDOM1** : 演奏中のCDの中から1曲ずつランダムに演奏します。
演奏中のCDの曲が全て演奏し終わると、次のCDでランダム演奏になります。
(RNDが表示窓で点灯し続けます)
- ・ **RANDOM2** : マガジン内の全てのCDの中から1曲ずつランダムに演奏します。
(RNDが表示窓で点滅し続けます)

リピート演奏(くり返し演奏)

リピート

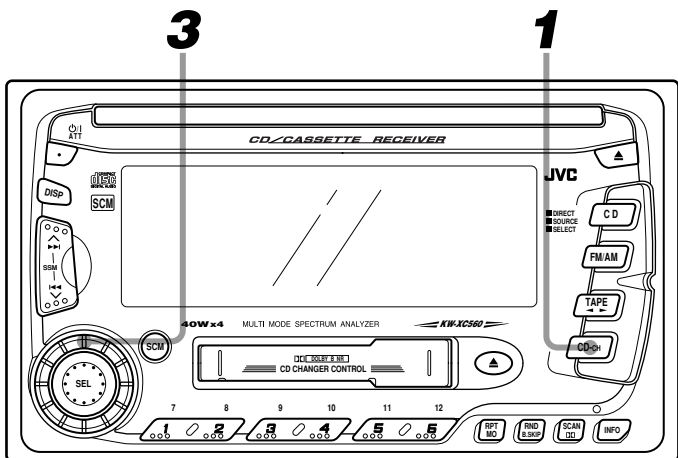
- ・ RPTボタンを使うと演奏中の曲をくり返して聞くことができます。表示窓に「REPEAT1」または「REPEAT2」が表示されます。



- ・ 押すごとに次のように動作します。
- ・ **REPEAT1** : 演奏中の1曲をくり返して聞くことができます。
(RPTが表示窓で点灯し続けます)
- ・ **REPEAT2** : 演奏中のCDの全曲をくり返して聞くことができます。
(RPTが表示窓で点滅し続けます)

他の機器の音を聞く

— 番号順に操作します。 —



- あらかじめCD-CHボタンのモードを「LINE IN」に切換えておきます。→ 35 ページ参照

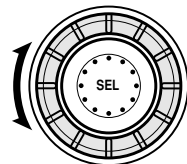
1 CD-CHを押す→電源が入ります



2 接続した機器を演奏状態にする

- 接続した機器に音量調節があるときは、CDなどの音と同じ程度に聞こえるように調節しておきます。

3 ローターボリュームで音量を調節する



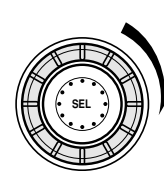
〈お知らせ〉

- 他の機器 (RCAの2チャンネル出力端子付) は、変換コード：KS-U57 (別売り) を使ってCDチェンジャー端子に接続することができます。すでにCDチェンジャーが接続されている場合は、ご利用になれません。

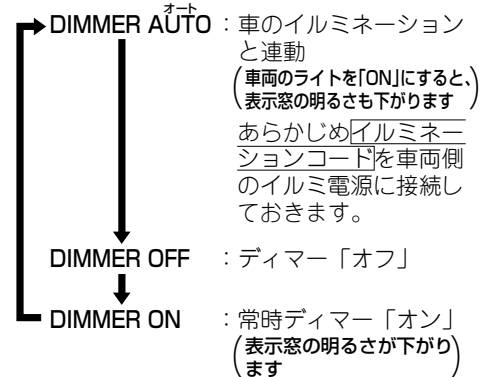
表示窓の明るさを変える

表示窓の明るさを変えるには

- 1 SELを2秒以上押す
・お買い上げのときは「PSM CLOCK H」が表示されます。
- 2 ▶▶(または◀◀)を「ボン・ボン」と押して「PSM DIMMER」を選ぶ
- 3 ロータリーボリュームでディマーのモードを選ぶ



・左方向に回すと逆
に選べます。



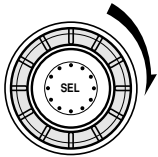
- 4 SELを押す

・元のソース(音源)表示に戻ります。

CD-CHボタンのモードを変更するには

CDチェンジャー端子に他のカーAV機器を接続したときは、CD-CHボタンのモードを「LINE IN」に変えます。

- 1 SELを2秒以上押す
・お買い上げのときは「PSM CLOCK H」が表示されます。
- 2 ▶▶(または◀◀)を「ボン・ボン」と押して「PSM LINE IN」を選ぶ
- 3 ロータリーボリュームで「LINE IN ON」にする



・CDチェンジャーを接続したときは、「LINE IN OFF」にします。「CDチェンジャー」のモードになりません。

- 4 SELを押す

・元のソース(音源)表示に戻ります。

正しくお使いいただくために

●本機はDC12V、マイナスアース車専用です。大型トラックなどの24V車には使用できません。

●スピーカーはアンプの出力(フロント/リア40W)に対し、入力に十分余裕のあるもの、インピーダンス4～8Ωのものをお使いください。

●次のような場所は避けて取り付けてください。

- ・直射日光の当たる場所、ヒーターの熱風を直接受ける所など、温度が極端に高くなる場所
- ・雨が吹き込む所や水がかかったり、湿気の多い所
- ・ほこりの多い所

●安全運転のために…

- ・運転中は車外の音が聞こえる程度の音量に調節してお楽しみください。また操作は、必ず安全な場所に停車させてから行ってください。
- ・ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

●車内の温度は…

真夏の炎天下や冬期低温下で長時間駐車した後に、CDを聞くときは、車内が常温に近くなるまでお待ちください。
(使用温度範囲：0℃～+40℃)

●バッテリーの過放電を防ぐため、エンジン停止中やアイドリング中は、大きな音量で長時間使用しないでください。

●結露(つゆつき)について

次のような場合、本機のレンズなどが結露してCDが正常に演奏できないことがあります。

- ・エアコンを入れた直後
- ・湿気が多いとき

このようなときは、電源を入れたまま約1時間～2時間待ってからお使いください。

●外国での使用は…

本機は日本国内用です。外国での使用はできません。

●スピーカーコードの接続について

本機はBTL*^{ビティーエル}回路方式を採用していますので、スピーカーの接続は必ず別紙の取付説明書の通りに行ってください。

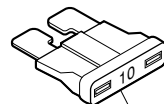
既設のスピーカーコードを利用するとき、左右のスピーカーコードの^{マイナス}側が車の金属部に接続されていたり、^{プラス}側同士が接続されていると故障の原因となります。

*BTL：Balanced Transformerless^{バランス}の略

2組でパワーアンプを互いに逆相で駆動し、比較的低い電圧で高出力が得られる回路方式のことです。

●ヒューズの交換について

本機のヒューズは10A(アンペア)です。交換してもすぐ切れるときは、お買い上げの販売店にご相談ください。また、10Aを超えるヒューズは絶対に使用しないでください。



ヒューズ(10A)

こんなときは — 「故障かな?」と思ったら… —

修理を依頼される前に、まず次の項目をお確かめください。

それでも直らないときは故障によることが考えられますので、お買い上げの販売店、または最寄りのサービス窓口までご連絡ください。

症 状	原 因	処 置
どのボタンを押しても正しく動作しない。	・ 雑音などの影響で内蔵のマイコンが誤動作しているため。	・ リセットボタンを押して内蔵のマイコンをリセットする。 (時計や放送局などのメモリーが取り消され、初期状態に戻ります)
▲(ディスク取出し)ボタンを押してもCDの取り出しができない。	・ 雑音などの影響で内蔵のマイコンが誤動作しているため。	・ SELボタンを押しながら⏻/(電源)/ATTボタンを2秒以上押す。その後再び▲(ディスク取出し)ボタンを押す。 (時計や放送局などのメモリーが取り消され、初期状態に戻ります)
CDの演奏が始まらない。	・ 雑音などの影響で内蔵のマイコンが誤動作しているため。	・ ▲(ディスク取出し)ボタンを押しながら⏻/(電源)/ATTボタンを押す。CDが出てきますので入れ直す。
	・ CDが汚れている。	・ 柔らかい乾いた布で演奏面を清掃する。
ラジオ放送がうまく受信できない。	・ 車両のオートアンテナコントロール端子(またはアンテナアンプ電源端子)に[オートアンテナ]コードが接続されていない。	・ [オートアンテナ]コードを接続する。 ➡ 29 ページ参照
	・ オートアンテナのコントロール電流が250mAを超えている。	・ [リモート出力]コードをオートアンテナに接続するように変更する。 ➡ 29 ページ参照

保証書とアフターサービス

●保証書の記載内容ご確認と保存について

この製品には、保証書が添付されております。

保証書はお買い上げの販売店でお渡しますので、所定事項の記入、および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

●保証期間について

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げの販売店が修理致します。

その他詳細は保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料にて修理させていただきます。

●補修用性能部品の保有期間について

当社はこのカーステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打切り後最低6年保有しています。

この期間は通産省の指導によるものです。

●アフターサービスについてのお問い合わせ先

ご転居、ご贈答、その他アフターサービスについてご不明の点は、お買い上げの販売店、または添付の「サービス窓口案内」をご覧ください。最寄りのサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

1. まずこの取扱説明書をよくお読みのうえ、再度お調べください。
2. それでも具合の悪いときは、お買い上げの販売店に次のことをお知らせください。

・ JVC CD/カセットレシーバー：KW-XC560

・ お名前とおとこ

・ 電話番号

・ 故障の状態(詳しく)：例 CDの演奏音が出ない。

別売りアクセサリ

・ クリーニングキット：CK-25(CD用)

・ RCA PIN コード：CN-505E(長さ0.5m)

CN-510E(長さ1m)

CN-520E(長さ2m)

・ オートヘッドクリーナー：CK-6

・ 変換コード：KS-U57(DIN→RCA PIN変換)

主な仕様

●本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

CDプレーヤー部

- 型 式：コンパクトディスクデジタルオーディオシステム
- 信号読み取り方式：非接触光学式読み取り
(半導体レーザー、 $\lambda=780\text{nm}$ 使用)
- エラー訂正方式：クロスインターリーブリードソロモンコード
- チャンネル数：2チャンネル
- 周波数特性：5 Hz~20kHz
- ダイナミックレンジ：93dB
- S N 比：98dB
- ワウ・フラッター：測定限界以下

チューナー部

- アンテナ端子：外部FM/AM兼用アンテナコネクター×1
オートアンテナコントロール電源コード付
- FMチューナー部
- 受信周波数：76.0MHz~90.0MHz
- 実用感度：14.3dBf(1.43 μ V/75 Ω)
- AMチューナー部
- 受信周波数：522kHz~1,629kHz
- 実用感度：27dB μ (22.4 μ V)

カセットプレーヤー部

- トラック方式：コンパクトカセット・ステレオ
- ワウ・フラッター：0.1%W・RMS
- 早巻き時間：約100秒(C-60)
- 周波数特性(再生)：ノーマルテープ 30Hz~16 kHz
- SN比(ノーマルテープ)：DOLBY B NR ON 65dB
DOLBY NR OFF 56dB

オーディオアンプ部

- 最大出力：フロント 40W+40W(4 Ω 、1 kHz)
リア 40W+40W(4 Ω 、1 kHz)
- 適合インピーダンス：4 Ω (4 Ω ~8 Ω で使用可能)
- 入力端子：DINジャック(8ピン)×1、
CDチェンジャー(またはカーAV機器)接続用
- 出力端子：RCA端子(2系統)、2.0V/1k Ω
スピーカーコード(2系統、ギボシ型)

電源部・その他

- 電源電圧：DC14.4V(11V~16Vで使用可能)
マイナスアース車用
- 時刻表示：12時間表示法
- 取付寸法：幅178mm×高さ100mm×奥行155mm
- 外形寸法：幅178mm×高さ100mm×奥行165mm
- 質量：約2.2kg(付属品含まず)

付属品

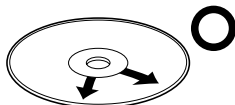
- ・接続コード(16ピンコネクター)… 1
- ・皿ネジ(M5×6mm)…………… 8
- ・ネジ(M5×6mm)…………… 8
- ・日産専用プレート…………… 1

お手入れ

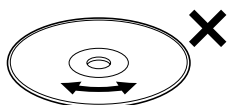
CD(コンパクトディスク)のお手入れ

本機に入れる前に、演奏面についたほこりやゴミ、指紋などを柔らかい布でふきとってください。

必ず内側から外側にふいてください。



必ず内側から外側へ



連続したキズは音飛びの原因になります。

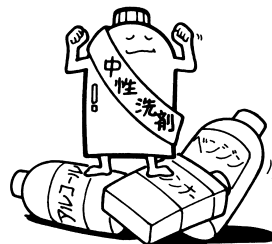
- シンナーやベンジン、アナログレコード用のクリーナーなどは絶対に使用しないでください。

本体の清掃

パネル面が汚れたら柔らかい布などで**からぶき**してください。汚れがひどいときは水で布をしめらすか、中性洗剤を少し布につけてふき、あとは**からぶき**してください。

ご注意

- シンナーやベンジン、アルコールなどの化学薬品でふいたり、殺虫剤をかけないでください。変色したり表面の仕上げをいためることがあります。



JVC

MANUFACTURED BY VICTOR COMPANY OF JAPAN, LIMITED

日本ビクター株式会社

お問い合わせ先

パーソナル&モバイルネットワークビジネスユニット

〒371-8543 群馬県前橋市大渡町一丁目10番地の1 ☎ダイヤルイン(027)254-8926